

会 議 録

1 会議名

令和5年度 第2回上越市歯科保健計画策定委員会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 次期歯科保健計画の評価指標について（公開）
- (2) 評価指標の目標値について（公開）
- (3) 次期歯科保健計画の素案について（公開）
- (4) その他（公開）

3 開催日時

令和5年9月28日（木） 午後2時30分から

4 開催場所

上越保健センター2階 集団指導室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：10名中 10名出席

黒田 陽、 新部 洋史、 俵木 修、 片海 正明、 神戸 正人、
丸田 隆司、 矢富 政則、 橋本 ヒデ子、 樋口 聖子、 室 美南

・事務局：小林健康福祉部長

高橋高齢者支援課作業療法士長、 藤縄幼児保育課栄養士長、
加藤学校教育課指導主事

田中健康福祉部参事、 柳澤統括保健師長、 岩野上席保健師長、
小黒保健師長、 浅野主任、 木村保健師

8 発言の内容

【開会】

(1) あいさつ 小林健康福祉部長

(2) 議事

(事務局が資料1について説明)

【新部委員長】

資料1について、質疑を伺う。

特に、障がい者歯科診療センターの新規患者数をそのまま指標としてよいか。

また、口腔機能の指標の扱い方についてもいかがか。口腔機能の評価については、小児歯科学会をはじめとして統計学的なコンセンサスを得る段階で、国でも指標があげられないのだと思う。

【神戸委員】

口腔機能に関しては、小児歯科学会でもある程度議論されているが、まだ個々によって判断が分かれるところである。まとめ次第、皆さんに機会があればお話をさせていただきたい。

【樋口委員】

歯科衛生士会では、むし歯予防教室で年中児を対象に健康教育をしているが、お口の機能面ではやはり劣ってしまう。口腔機能の保健指導で、幼児期であれば保護者へ話ができるとうい。子どもがうまく噛めているか、保護者が分かるようにガムを使う等の指導がよいのではないか。

(事務局が資料2について説明)

【新部委員長】

資料2について、それぞれの立場での考えや意見を伺う。

障がい者歯科診療センターの新規患者数は現状値が24人だが、これについてはどうか。

【俵木委員】

このようなデータの取り方や表示の仕方もよいと思う。ただ、現状値や目標値を記載する評価指標の中に項目として入れるのはどうだろうか。

【樋口委員】

指標として見ていくのであれば設けてもよいと思うが、他の項目とは考え方が少し違う。資料として見るのはよいが、評価指標の一覧に載せる必要はあるのだろうか。

【新部委員長】

障がい者歯科診療センターは、市の協力をいただき開設から2年が経過した。初めは高齢患者が多かったが、現在は若年患者も増え、いわゆる特別な配慮が必要な患者をメインとして地域のニーズに応えようとしている状態。個人的には、新規患者数を参考値として見るのはよいと思う。

【小林部長】

資料2は指標と目標を一覧表にしたものであり、素案にどう書くかが重要になる。素案11ページ(5)評価指標には「新規患者数」と記し、目標値は入らない。他のライフステージは評価指標と目標値がそれぞれ入るため、そこが違くと理解いただきたい。新規患者数が増えればよいのか減ればよいのか微妙な数字だが、それをもって毎年、事業検討会をしていく際にきちんと追いかける指標として持っていたい。確かに、一覧表にするとこの指標の目標値だけ空欄になるため、おかしく感じるとは思うが、実際の計画にした時には、そこまでおかしな部分は無いと思う。

【俵木委員】

指標と目標の一覧表には、はっきりと「目標値なし」と表した方が分かりやすいと思う。

【小林部長】

趣旨が伝わるようにしたい。

【橋本委員】

目標値について3つお聞きしたい。

1つ目は、5歳児のむし歯有病率の目標値が20%以下となっているが、あまり現状と変わらない。県や国との整合性と、これ以上減少させるのはなかなか難しいという見解と思うがいかがか。

2つ目は、20代の進行した歯周病を有する人の割合について、目標値が現状から随分高い数字となっている。これまでの経過を見ても改善が難しいところとを感じるが、この目標値で良いのか。

3つ目は、過去1年間に歯科健診を受診した人の割合が、現状よりも目標が高い数字になっている。県や国は高い目標になっているが、この目標は達成できそうなのか。

【小黒保健師長】

1つ目、5歳児のむし歯有病率は現計画での目標が30%以下となっていたが、減少が緩やかであることも踏まえ、県の目標と合わせて20%以下とした。

2つ目、20代の進行した歯周病を有する人の割合と、3つ目、過去1年間に歯科健診を受診した人の割合も、やはり比較できるものと合わせるために国や県の目標値を参照したがいかがか。

【片海委員】

目標値に関しては妥当と思う。結局、若い世代が人口分布的に減ってくるので、かなり大きく振れ幅が出る。高齢期は人口分布が広いので変化がしにくい事を踏まえても、若い人の目標は厳しめでも達成は可能と思う。この数字でも問題ない。

【丸田委員】

年代によって少し振り幅が出てくると思うが、個人的には良いと思う。目標が実現できるかどうかは、またこれから検討しながら毎年の数値の見直しが必要と思う。

【矢富委員】

過去1年間に歯科健診を受診した人の割合は、願望的な目標値だと思うが、内容によってはそれでもよいと思う。むし歯の本数などに関しては、ある程度現実味を持っての目標値設定をして、その他は健診を受けていただきたいという願望的な目標値があってもよいと思う。

【橋本委員】

毎年見直しながらこの目標に近づけるように皆で検討していけばよい、と聞き、私自身も市民の1人として心強く感じた。若い時の現状値が高いと、年を重ねた時にもっと悪い結果になるので、この目標値を立て、皆でそこに向かって頑張るという事がこの計画の意味なのだと感じた。

【樋口委員】

乳幼児期の目標に歯肉炎の発症予防と書いてあるが、歯肉炎を目標に掲げるのはなぜか。

【小黒保健師長】

歯肉炎の発症予防は小学生以降の基本方針で、誤りである。

【新部委員長】

3 歳児の 4 歳以上むし歯有病率は、むし歯がある人の中で、さらに 4 本以上ある人の割合か。

【小黒保健師長】

1 人で 4 本以上のむし歯がある 3 歳児の割合である。

【黒田委員】

口腔機能の改善について、マニュアルはあるか。また、実際に行っている事はあるか。

【樋口委員】

マニュアルがなく今困っている状態。子どもに向けては、お口の健康体操がある。

【新部委員長】

鹿児島大学の「あいうべ体操」か。

【樋口委員】

その体操ではないが、保育園で深呼吸から行っているところがある。食事の前に DVD を流して、口を動かしてから食べる取組を市でも行っている所があったと思う。

【黒田委員】

口腔機能というと高齢者やオーラルフレイルのイメージがあるが、発達という考え方で乳幼児期に対策を行う方が重要なため、マニュアルのようなものを歯科医師会で作成できればよいと思う。地域保健部や在宅歯科医療連携室と検討が必要である。

口腔機能は漠然としか分からない。よく噛むように等、その程度になってしまう。

【新部委員長】

小児歯科学会も手探り状態である。

2021 年に新大の准教授や研究グループが「お口ぼかん調査」を行った。「1 分以上、閉口できる」、「口を閉じて食べられる」等について全国小児歯科開業医の先生にアンケートをとり、全国規模の疫学調査とした結果、3 歳～12 歳の約 30%が「お口ぼかん」を示した。何をもって口腔機能が不全かというのを今、一生懸命探しているところである。

小児歯科学会でも、乳幼児に関してはそれを病気として捉えてよいのかどうかまだ微妙である。

【小黒保健師長】

園では給食前にお口元気体操をしており、カミカミメニューと合わせて健康教育を行っている。

【黒田委員】

橋本委員の意見はまさしく正論だと思う。5 歳児のむし歯有病率は、今後もっと増加するかもしれない。サホライド塗布歯に関して、上越歯科医師会は今まで処置歯扱いとしていたが、今年の幼児歯科健診から、少しえぐれているものや、欠けているような状態も、C（むし歯）扱いとしたので、現状値がもっと上がるかもしれない。

1 年間に歯科健診を受診した人の割合の目標値については、理想は高くでよいと思う。

【樋口委員】

特定健診に歯科ブースを併設する方法について、他県の歯科衛生士から新潟へコメントを求められることがある。国民皆歯科健診など受診者を増やすための対策について、どう考えているか。

【岩野上席保健師長】

現状では、市の特定健診会場に歯科健診のブースを設けることは難しいが、国民皆歯科健診について国でも方策を議論しているため、国の動きを注視していきたいと考えている。

【丸田委員】

乳幼児健診では希望者にフッ素塗布を行っているが、私の実感として、希望者が例年少なくなっているように思う。フッ素塗布の実施率はどうなっているか。

【小黒保健師長】

フッ素塗布実施率は例年 75～80% ぐらいの割合であり、特に減ったという認識はない。健診会場でフッ素も塗布するのが習慣になっていると感じる。フッ素塗布を希望しない主な理由は「かかりつけ歯科医に行ったばかりだから」、「かかりつけ歯科医に予約を取ってあるから」等である。

【丸田委員】

健診会場でのフッ素塗布にかかる費用は 1,000 円だったと思うが、値段の設定はどうなっているか。歯科医院へ行く機会を増やすことを目指すならば、健診会場でフッ素を塗布しない子にはチケット等を配布して受診勧奨を行う等、工夫をすることでフッ素塗布率が增加すると思う。

【小黒保健師長】

フッ素塗布の料金は 1 人 1,000 円で行っているが、フッ素塗布を始める時に歯科医師会の先生方と協議した結果の設定である。歯科健診会場で必ずフッ素塗布をしなければいけないのではないが、塗布をしない子が定期的に歯科医院を受診しているということを確認していきたい。

【新部委員長】

本日の内容を踏まえて改めて素案を確認いただき、意見を集約したいと思うが、大幅な修正がない場合は、11 月に予定している策定委員会を行わないこととする。

【岩野上席保健師長】

本日の話し合いを踏まえ、素案をもう一度確認をいただいた上で意見があれば、10 月 6 日までに事務局へ意見をいただきたい。その修正の状況により、次回 11 月の開催をするか改めて案内する。これで令和 5 年度第 2 回上越市歯科保健計画策定委員会を終了する。

9 問合せ先

健康福祉部健康づくり推進課 健診・相談係

T E L : 025-520-5842

E-mail : kenkou@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別途の会議資料も併せてご覧ください。